

きのこ類目録

米山競一・梅 典雅 (石川きのこ会)

1997: 2: 1

番号	和名	学名	標本	文献			現地調査	備考
				①	②	③		
1	アカヤマタケ	Hygrophoraceae Hygrocybe conica	石川きのこ会会長	0		☆		
2	キノメリガサ	Hygrophorus lucorum	它標本庫に保管				◎	菌
3	コガネヌメリガサ	H. speciosus	以下同上			0	◎	菌
4	ヒメキシメジ	Tricholomataceae Callistosporium luteoolivaceum				0		
5	エセオリミキ	Collybia butyracea				☆	◎	
6	アマタケ	C. confluens		0		☆	◎	菌
7	モリノカレバタケ	C. dryophila				☆	◎	
8	オオキツネタケ	Laccaria bicolor		0		☆	◎	
9	キツネタケ	L. laccata form. laccata		0		☆	◎	菌
10	ヒメキツネタケ	L. laccata form. minuta					◎	菌
11	キツネタケモドキ	L. ohioensis		0	0	◎	◎	菌
12	キナメアシタケ	Mycena citrinella				0	◎	
13	ナメアシタケ	M. epipterygia				☆	◎	
14	クヌギタケ	M. galericulata		0		☆	◎	
15	チシホタケ	M. haematopoda				☆	◎	
16	サクラタケ	M. pura		0		☆	◎	
17	ツエタケ	Oudemansiella radicata		0		☆	◎	
18	クダアカゲシメジ	Tricholoma vaccinum		0	0			菌
19	ネズミシメジ	T. virgatum			0	0		菌
20	キサマツモドキ	Tricholomopsis decora				☆	◎	
21	ザラツキテングタケ	Amanitaceae Amanita aspera				0		菌
22	テングツルタケ	A. ceciliae		0	0			菌
23	タマゴテングタケモドキ	A. longistriata		0	0			菌
24	ベニテングタケ	A. muscaria				0		菌
25	カバイロツルタケ	A. vaginata var. fulva		0	0	☆	◎	菌
26	ツルタケ	A. vaginata var. vaginata		0	0			菌
27	オオツルタケ	A. vaginata var. punctata				0		菌
28	シロタマゴテングタケ	A. verna		0	0	☆		菌
29	ドクツルタケ	A. virosa		0	0	☆	◎	菌
30	チャヒメオニタケ	Agaricaceae Cystoderma terreii				☆	◎	
31	ムササビタケ	Coprinaceae Psathyrella piluliformis		0		☆	◎	
32	ニガクリタケ	Strophariaceae Naematoloma fasciculare		0		☆	◎	
33	アカツムタケ	Pholiota astragalina				☆	◎	
34	ヒメクズタケ	Psilocybe montana					◎	
35	モエギタケ	Stropharia aeruginosa		0		☆		
36	キンチャフウセンタケ	Cortinariaceae Cortinarius aureobrunneus		0	0			菌
37	ハイムラサキフウセンタケ	C. azureus				0		菌
38	キアブラシメジ	C. vibratilis					◎	菌
39	ヌメリササタケ	C. pseudosalor				☆	◎	菌
40	ササタケ	Dermocybe cinnamomea				☆	◎	菌
41	カブラアセタケ	Inocybe asterospora			0	0	◎	菌
42	アオアシアセタケ	I. calamistrata			0	0		菌
43	コツノアセタケ	I. cervicolor		0	0	◎	◎	菌
44	コブアセタケ	I. nodulospora		0		☆	◎	菌
45	ニセアセタケ	I. praetervisa				☆	◎	菌
46	ショウゲンジ	Rozites caperata				0	◎	菌
47	アオエノモミウラタケ	Rhodophyllaceae Rhodophyllus lampropus				0		
48	エイザンモミウラモドキ	R. mycenoides		0	0	◎		
49	コモミウラモドキ	R. papillatus		0	0			
50	ミノモミウラモドキ	R. staurosporus				☆	◎	
51	ヒダハタケ	Paxillaceae Paxillus involutus		0	0	◎		菌

52	フサクギタケ	Gomphidiaceae <i>Chroogomphus tomentosus</i>		0	0	0	④	菌
53	オオダイアシベニイグチ	Boletaceae <i>Boletus odaiensis</i>			0	0	④	菌
54	ミヤマイロガワリ	<i>B. sensibilis</i>			0	0		菌
55	コゲチャイロガワリ	<i>B. umbriniporus</i>			0	☆		菌
56	ハンノキイグチ	<i>Gyrodon lividus</i>				0	④	菌
57	クリイロイグチ	<i>Gyroporus castaneus</i>		0	0	☆		菌
58	キンチャヤマイグチ	<i>Leccinum versipelle</i>		0	0	0	④	菌
59	ヤマイグチ	<i>L. scabrum</i>			0	0	④	菌
60	キヒダタケ(新産種)	<i>Phylloporus rhodoxanthus</i>					④	菌 和名なし(仮)
61	ベニハナイグチ	<i>Suillus pictus</i>		0	0	0	④	菌
62	ゴヨウイグチ	<i>S. placidus</i>			0	0	④	菌
63	ヌメリツバイグチ	<i>S. subluteus</i>				☆	④	菌
64	ヌメリイグチ	<i>S. luteus</i>				0	④	菌
65	チチアワタケ	<i>S. granulatus</i>			0	0		菌
66	ワタゲヌメリイグチ	<i>S. tomentosus</i>			0	0		菌
67	ニガイグチモドキ	<i>Tylopilus neofelleus</i>			0	☆		菌
68	ムラサキカスリタケ	Russulaceae <i>Russula amoena</i>		0	0			菌
69	イロガワリキイロハツ	<i>R. claroflava</i>					④	菌 和名なし(仮)
70	カワリハツ	<i>R. cyanoxantha</i>		0	0	0	④	菌
71	クロハツモドキ	<i>R. densifolia</i>		0	0	0	④	菌
72	ドクベニタケ	<i>R. emetica</i>		0	0	0	④	菌
73	コクサハツ	<i>R. farinipes</i>				0	④	菌
74	クサハツ	<i>R. foetens</i>				0	④	菌
75	クサハツモドキ	<i>R. laurocerasi</i>		0	0	☆		菌
76	イロガワリシロハツ	<i>R. metachroa</i>		0	0			菌
77	ヤマブキハツ	<i>R. ochroleuca</i>		0	0	0	④	菌
78	クサイロアカネタケ	<i>R. olivacea</i>			0	☆	④	菌
79	イロガワリベニタケ	<i>R. rubescens</i>				☆	④	菌
80	チギレハツタケ	<i>R. vesca</i>			0	0		菌
81	キチチタケ	<i>Lactarius chrysorrheus</i>				☆	④	菌
82	クロチチタケ	<i>L. lignyotus</i>		0	0	0	④	菌
83	ヌメリアカチチタケ	<i>L. hyginus</i>					④	菌
84	ツチカブリ	<i>L. piperatus</i>		0		☆		菌
85	アカチチタケ	<i>L. rufus</i>				0	④	菌
86	チチタケ	<i>L. volemus</i>		0	0	☆	④	菌
87	アンズタケ	Cantharellaceae <i>Cantharellus cibarius</i>				0	④	菌
88	アキイロウスタケ	<i>C. cinereus</i>				☆	④	菌
89	ヒナアンズタケ	<i>C. minor</i>			0	☆		菌
90	ウスタケ	Gomphaceae <i>Gomphus floccosus</i>			0	☆		菌
91	アシグロタケ	Polyporaceae <i>Polyporus badius</i>				☆	④	
92	クリイロリャワシタケ	Pezizaceae <i>Peziza badia</i>				0	④	

④ 印は文献内に、高山帯・亜高山帯に分布することが確かめられる記載のあるものを示す。

☆ 印は、文献④にあるが広域に分布するので高山帯・亜高山帯の植生に関する記載がないものを示す。

④ 印は、現地調査で標本採取したものを示す。

※ 備考欄の(菌)は、菌根菌であることを示し、(任)は任意菌根菌であることを示す。(空欄は腐生菌または不明菌である。)

※ 表の文献の番号 ①、②、③は下記の文献の番号を示す。

※ 番号60は外部に同定を依頼中、同種の亜種の可能性がある。

文献

- | | | | | | |
|---|------|------|--------------|------------------------------|---------------|
| ① | 池田良幸 | 1984 | 白山のハラタケ目のキノコ | 石川県白山自然保護センター研究報告 第10集 31-48 | 石川県白山自然保護センター |
| ② | 池田良幸 | 1992 | キノコ 白山・自然と文化 | 白山総合学術書編集委員会編 162-173 | 北國新聞社 |
| ③ | 池田良幸 | 1996 | 石川のきのこ図鑑 | | 北國新聞社 |

文献目録

文献名(巻・号)	タイトル	著者名	掲載頁	発行年	発行所	所在地
石川県白山自然保護センター研究報告第10集	白山のハラタケ目のキノコ	池田良幸	31-48	1984	石川県白山自然保護センター	石川県
白山 自然と文化	キノコ	池田良幸	162-173	1992	白山総合学術書編集委員会編 北國新聞社	石川県
石川のきのこ図鑑		池田良幸	1~253	1996	北國新聞社	石川県
石川県産 キノコ検索図鑑		池田良幸	1~142	1990	橋本確文堂	石川県
日本菌類図鑑 Ⅰ		今関六也・本郷次雄	1~325	1987	保育社	大阪市
日本菌類図鑑 Ⅱ		今関六也・本郷次雄	1~315	1992	保育社	大阪市
日本のきのこ		今関六也他	1~623	1988	山と溪谷社	東京都
多様性の生物学		岩槻邦男	1~174	1993	岩波書店	東京都
菌根の生態学	M. F. アレン著・中坪孝之・堀越孝雄訳		1~208	1995	共立出版株式会社	東京都

白山高山帯・亜高山帯のきのこ

米山競一・梶 典雅 (石川きのこ会)

I はじめに

キノコはカビやコウボと同じ菌類であり、固着生活をすることから藻類と対比され従来隠花植物の一群として取り扱われてきたが、その体制、栄養の摂取法、生殖方法、生活環などにおいて動物界や植物界にみられるものと異質であると言うことから、現在では独立した菌界を構成するものとされている。

なお、変形体をつくる粘菌類と複相の糸状体をもつ水生菌類は真菌類と異なっていることからこれらを原生生物界にまとめ、菌界を真菌類だけで構成するというのが最近の一般的な傾向であり、“生態系多様性国家戦略一環環境庁”においても菌界を独立させ5界説を採用しており、同様に位置づけられている。本多様性調査においては、対象を真菌類である担子菌類と子囊菌類のうち肉眼で確認できる子実体を持ち、従来から一般に親しまれて‘きのこ’と呼称されているものを対象とした。

今回、白山高山帯及び亜高山帯の‘きのこ’について、まとめる機会を得たが、高山帯の調査活動は体力と時間の消耗が伴ううえ、とりわけ‘きのこ’の調査活動には同定や標本作製に多くの手順が要求されることもあって全国的に文献が少ない。幸い白山のきのこに関する調査研究については、“白山のハラタケ目のキノコ”(池田, 1984)、“キノコ”(池田, 1992)、“石川のきのこ図鑑”(池田, 1996)などの文献があり、また、現在継続中の石川きのこ会(池田・主宰)の高山帯の調査活動もあって、かなり実態が分かりかけている。この報告書は“石川きのこ会”の高山帯調査活動の成果を研究調査部担当という著者の立場で執筆するものである。

II 調査方法・その他

1. 事前調査

文献調査による‘きのこ’の目録作成

2. 調査者

調査は著者及び採取許可を得た石川きのこ会会員が行った。

3. 調査範囲

白山の高山帯・亜高山帯(標高 1,600m以上)の石川県側全域を調査対象とした(調査対象範囲図参照)。

4. 調査方法

現地で発見したものは、同定の資料となるように生態写真と種の特徴が分かるように工夫して写真をとり、良好な個体を選んで種毎に別封し持ち帰り証拠標本とした。

採取にあたっては、発生環境、生態的特徴（群れの様子）、形態的特徴、匂い、味、呈色反応などを記録した。

持ち帰った子実体は下山後写生し、誤認の虞れあるものについては同定に誤りがないように、検鏡及び試薬による呈色反応検査を行った。なお、不確かなものについては、同定を外部に依頼した。

III 結果

現地で採取され、同定された種類数、内容などは次のとおりである。なお、種名は別紙目録のとおりである。

現地確認数	15科29属61種1変種2品種	合計	62種類
目録記載数(文献記録種を含む)	16科36属89種3変種2品種	合計	92種類

担子菌・子囊菌の別	担子菌の種類数	子囊菌の種類数	合計
現地確認数	61	1	62
目録記載数(文献記録種を含む)	91	1	92

菌根菌・腐生菌の別	菌根菌の種類数	任意性菌根菌の種類数	腐生菌種類数(不明種を含む)	合計
現地確認数	40	1	21	62
目録数記載(文献記録種を含む)	67	1	24	92

IV まとめ

1.

高山帯・亜高山帯に発生する‘きのこ’のうち大部分は、山地帯や丘陵帯にも発生する広域分布種で、これらの大半はすでに一般に公表されているもので同定可能なものが多い。これに対して、高山帯から亜高山帯にかけて発生する種は、全国的に調査が遅れており、命名されていないものも多く、同定が困難である。このため、属段階の同定で止まるものが多い(約50種、今回の目録から除いた)。

2.

目録の総数92種類のうち、現地調査で採取し、同定できたのは62種類で目録総数の3分の2にあたる。

3.

高山帯・亜高山帯では‘きのこ’を形成するのはほとんど担子菌で、子囊菌はごく稀であり、これまで現地調査で採取され、同定されたのはクリイロチャワンタケのみである。

4.

腐生菌より菌根菌の方が種類が多く、現地調査で確認できた菌根菌は任意性菌根菌を含めて41種類で全体の約3分の2にあたる。これらはハイマツ、オオシラビソ、ミヤマハンノキ、ダケカンバなどと共生し、これらの樹木の生育に深く関わっていることが推測される。

